

熊本大西市長の言葉

多くの市民の生命財産を守ることが出来なかった

市民の生命財産を守ることはそんな簡単なことではなかった

本震が襲った4月16日は余震が1,223回 一日中揺れていた

死亡53名 負傷者648名

全壊5,508棟 大規模半壊8,474棟 半壊31,225棟 一部損壊61,215棟

避難所最大で276箇所 避難者数最大で110,750人

5月8日ごろに学校を再開 これが大きな節目となった

7月3日 J2アロッソ熊本のホームゲーム再開

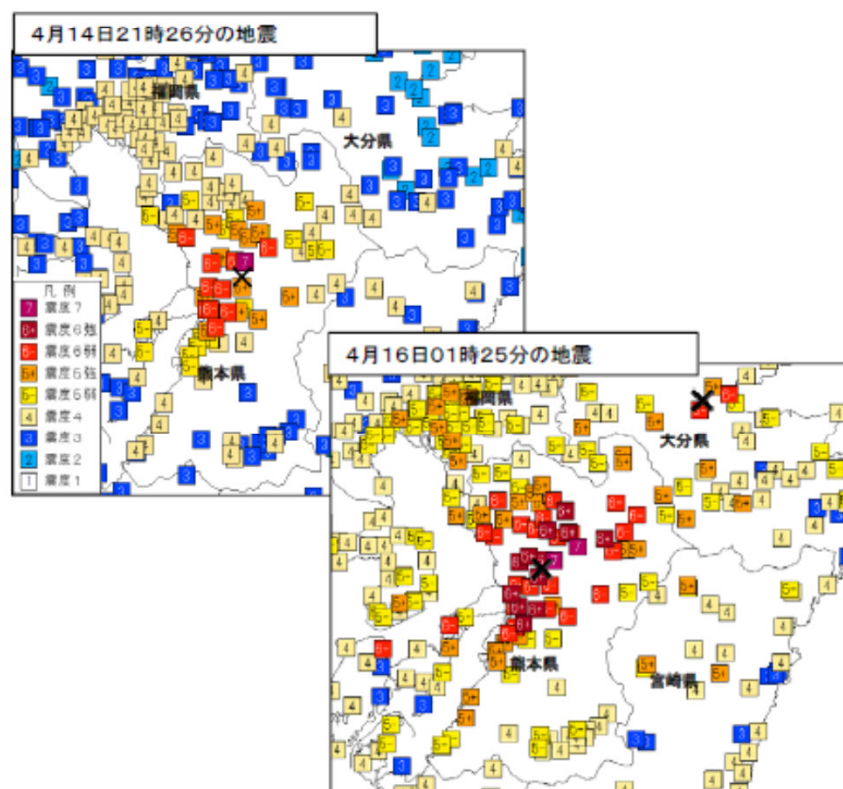
8月5日 火の国祭り開催 3日間で48万人

平成28年熊本地震 地震概要

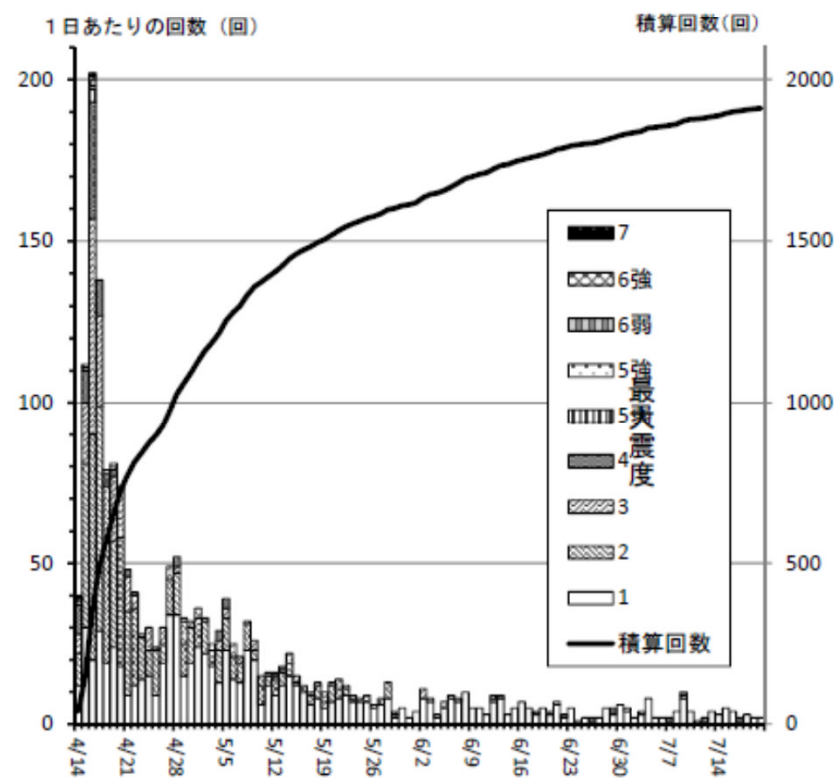
参考資料1

- 4月14日21時26分の地震以降、震度6弱以上を観測する地震が7回発生、うち2回は震度7。震度1以上を観測する地震が1,909回発生(7月19日現在)。
- 現状程度の余震活動は当分の間続くが、最大震度5強程度の強い揺れを伴う余震が発生する可能性は低下【地震調査研究推進本部地震調査委員会の評価(7月11日)】

震度分布



震度1以上を観測した地震の日別回数



平成28年熊本地震 被害状況(人的被害、物的被害)

- 熊本県を中心に、多数の家屋倒壊、土砂災害等により死者64名、重軽傷者約1,816名の甚大な被害
- 電気、ガス、水道等のライフラインへの被害のほか、空港、道路、鉄道等の交通インフラにも甚大な被害が生じ、住民生活や中小企業、農林漁業や観光業等の経済活動にも大きな支障

○人的被害

(7月19日現在)

	死者	重軽傷者
人数	64名	1,816名

※ 死者のうち、震災後における災害による負傷の悪化又は身体的負担による疾病により死亡したと認められた者が10名、6月19日から25日に発生した被害のうち熊本地震との関連が認められた死者数が5名

※ 上記のほか、震災後における災害の負傷の悪化又は身体的負担による疾病により死亡したと思われる死者数(正式には市町村に設置される審査会を経て決定)が17名(熊本県)、程度分類不確定な負傷者が140人(熊本県)

○住家被害

(7月19日現在)

都道府県名	住宅被害			非住家被害		火災(件)
	全壊(棟)	半壊(棟)	一部破損(棟)	公共建物(棟)	その他(棟)	
山口県			3			
福岡県		1	230		1	
佐賀県			1		2	
長崎県			1			
熊本県	8,330	26,170	120,989	243	2,090	16
大分県	6	160	5,045		35	
宮崎県		2	20			
合 計	8,336	26,333	126,333	243	2,128	16

※このほか、分類未確定の住宅被害2,212棟)

○ライフライン被害

	最大戸数	復旧状況
電力	47万7000戸	4月20日復旧
ガス	10万5,000戸	4月30日復旧
水道断水	44万5,857戸	南阿蘇村2戸で断水(6月16時点)

※ 復旧状況は家屋倒壊と他の事情により復旧が困難な箇所を除く

文化財(熊本城)



農地被害



家屋の倒壊



平成28年熊本地震(交通インフラの状況)



(国土交通省資料を基に加工 7月14日10時00分現在)

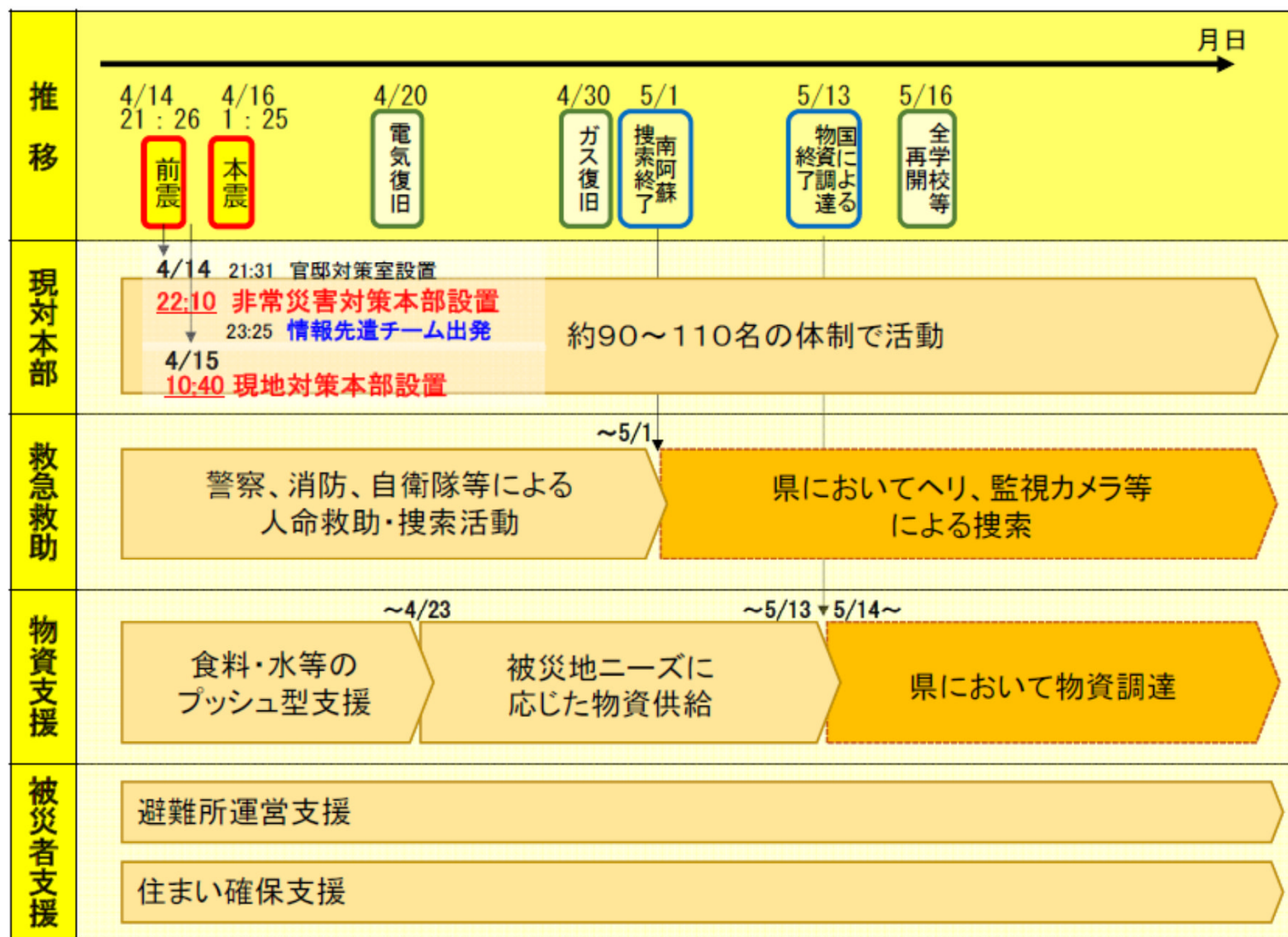
阿蘇大橋付近



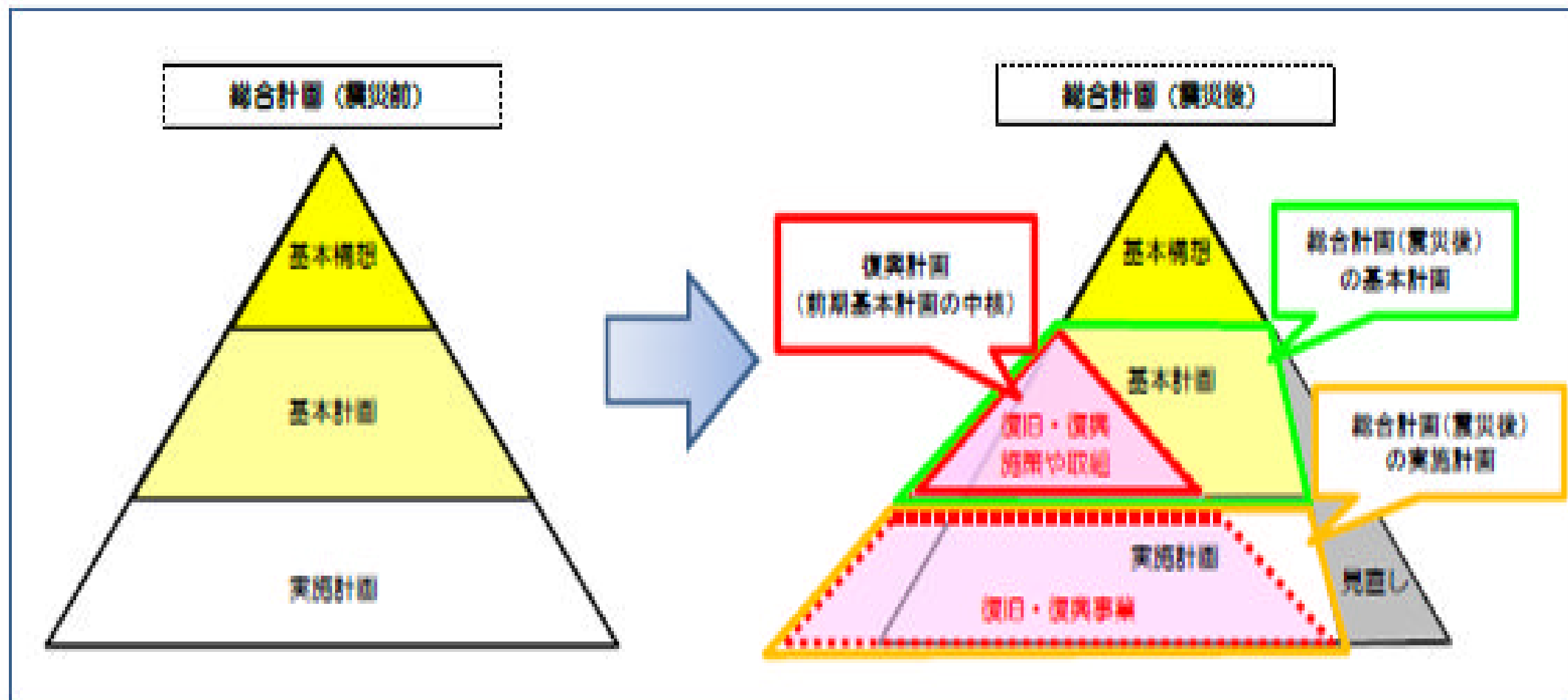
倭山トンネル



平成28年熊本地震(政府現地対策本部の時系列活動状況)



<イメージ図>



第3章 復興重点プロジェクト

～政令指定都市にふさわしい明日へのまちづくり～

- プロジェクト① 一人ひとりの暮らしを支えるプロジェクト
- プロジェクト② 市民の命を守る「熊本市民病院」再生プロジェクト
- プロジェクト③ くまもとのシンボル「熊本城」復旧プロジェクト
- プロジェクト④ 新たな熊本の経済成長をけん引するプロジェクト
- プロジェクト⑤ 震災の記憶を次世代へつなぐプロジェクト

私は、こう考える。

【本 質】

○ 防災の本質は、**予防**にある。

『行政は住民を災いなき地におき、災いの前に逃がす。
住民は、疑わしきを察し、災いの前に逃れる。』

これを忘れたときに人命は奪われる。

つまり...

『行政は住民を災いなき地におき、災いの前に逃がす。

住民は、疑わしきを察し、災いの前に逃れる。』

これを忘れて人命が奪われた。

信念：予防に勝る対策なし。

みなさん、お気づきと思いますが、

【盲点その1】

誰もが（と言ってよいでしょう。）
地震よりも風水害

最大震度7を想定しつつ、
予防重視の画期的な施策を考案するも、

・風水害対応偏重の訓練



地震想定を提案したが、当初却下

震度7で、最大避難者数18万人を、ピタリと当てながら、

・局地風水害用の備蓄と避難所

これが伝統的準備になった。

1 訓練が旧態依然の展示型

- ターゲットを明確にし、実践型に変更
- ・ 総合防災訓練を“**広域・総合・実践**”をキーワードに4カ年改革
(27年度改革初年度の総合訓練を地震想定で実施)
(地域、内容の逐次拡大方式、ブラインド方式の採用)
- ・ 機能別訓練の開始・充実、本部室訓練のレベルアップ

本部室運営力が格段とアップ

2 誰が指揮者かわからない。

(課員は複数の上司から指示受け)

- 指揮命令システムの整理
- ・ マニュアル上の**指揮系統(流れ)**を変更

指揮の混乱回避

3 本部室各グループが情報を占有

- 情報の共有、集中システムを構築
- ・ 防災センターの“調整台”を“**指揮台**”に変更
- ・ **状況図・行動図・グリッド地図(自衛隊方式)の導入**

状況判断が可能に

4 転入者は、「不思議の国のアリス」状態

即戦力に

(行政職員は、能力はあっても危機管理対応経験なし。)

- 誰でも記入できる用紙(様式)を作成
 - ・ 掲示物、統一用紙、**スタンプ式付箋紙**等の考案

5 スケジュール感がない。

抜け防止

- 対応スケジュールの作成
 - ・ タイムスケジュール、タイムラインで管理

6 報連相がない。

情報共有と
検証が可能に

- ・ “モーニング”を開始し、日常から報連相を意識付け。
- ・ AARの導入、クロノロジーの徹底

防災センター改革
のポイント(例)

1. “指揮（コマンド）” 概念の導入
2. 情報共有システム（グループ間）の確立
3. 初任者（職員）の戦力化

盲点その2

プッシュ型支援は必要だが...

(プッシュ型支援受けの混乱はここから始まる！)

「物資は、市町村拠点まで
運んでくれるのではなかったのか？！」

→ 南海トラフ具体計画説明時、内閣府・・・官の説明
「物資は、国が責任をもって市町村の拠点まで運搬する。」

(九州・沖縄各県代表者と自衛隊に説明)

〈誤判断を招く！〉

被害を受けた県最大の物流拠点
の早期復旧や代替施設は優先順
位を下げてよいと判断

○ プッシュ型支援の教訓と提案

【問題点】

- ・ 国のプッシュ方式は有効だが、**倉庫・職員不足**の中、**単品・大量の拠点配分**は問題

二度手間

水だけ4tもらっても。

【提 案】

→ プッシュ型支援のキーワードは、
“**リュックにセットでパックで**”

- 自助・共助 → 公助が整うまで**(3日分)**の**セット保管**(更に強調)
- 国 → 九州地区単位での**セット・パック・リュック方式**での備蓄
(各県ごとの大量備蓄は困難)

〈内 容〉

- ・ 物を渡すときは、人と付属品をセットにする。
- ・ 老若男女用“セット箱(リュック)”の配布(**女性・子供目線も**)
- ・ コンテナ配布車と避難所横付け方式の導入(避難者を作業員にし、餅まき方式)

ただし、自衛隊を配布に使うことには、反対！救命救助に必要

【改善を要する点】

1 “災害発生後における行政事務” 訓練が必要

(例) 災害従事車両証明、罹災証明、・・・。
(当日から発生) (市町村訓練徹底)

2 プッシュ型物資配送における “セット・パック・リュック方式” の採用

(発想の転換が必要)

3 避難所位置の見直しと

各避難所担当**住民リーダーによる運営** 等

(住民目線での避難所位置の設置と自主運営)

平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ①

○益城町の概要

益城町は、熊本県のほぼ中央からやや北寄りに在り、熊本市東部に隣接している。

「阿蘇くまもと空港」や「益城熊本空港IC」などの交通拠点が所在し、田園と都市が調和する町として発展してきた。

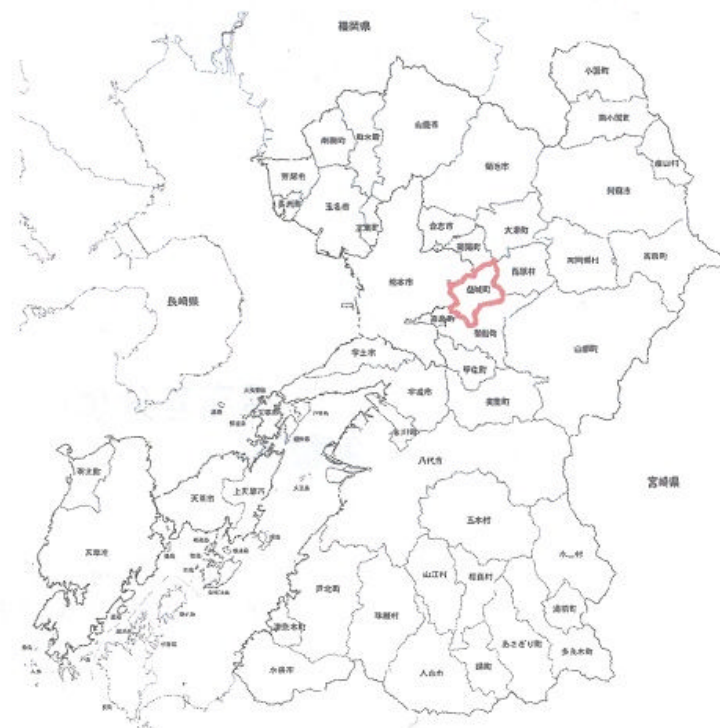
【人口・世帯数】

人口	34, 605人
世帯数	13, 450世帯
男	16, 617人
女	17, 988人

(H28.2月末現在)

【主な公共施設】

- ・小学校5校、中学校2校
- ・総合体育館
- ・保健福祉センター
- ・交流情報センター
- ・男女共同参画センター など



平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ②

○地震の概要

【前震】

発生日時:4月14日(木) 21時26分頃

規模:マグニチュード6.5

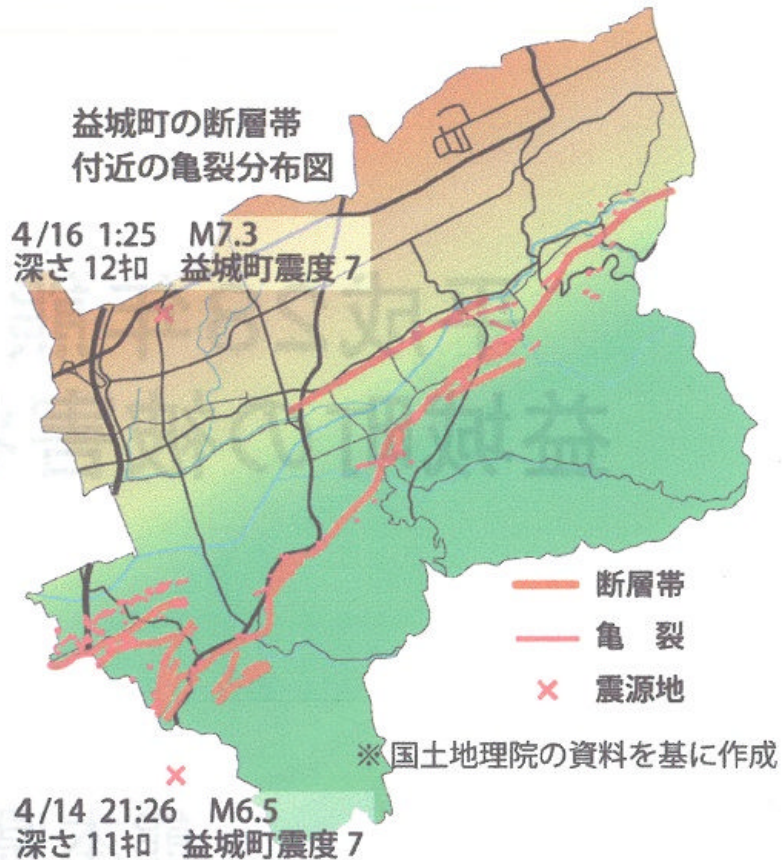
震度:震度7(益城町宮園)

【本震】

発生日時:4月16日(土) 1時25分頃

規模:マグニチュード7.3

震度:震度7(益城町宮園)

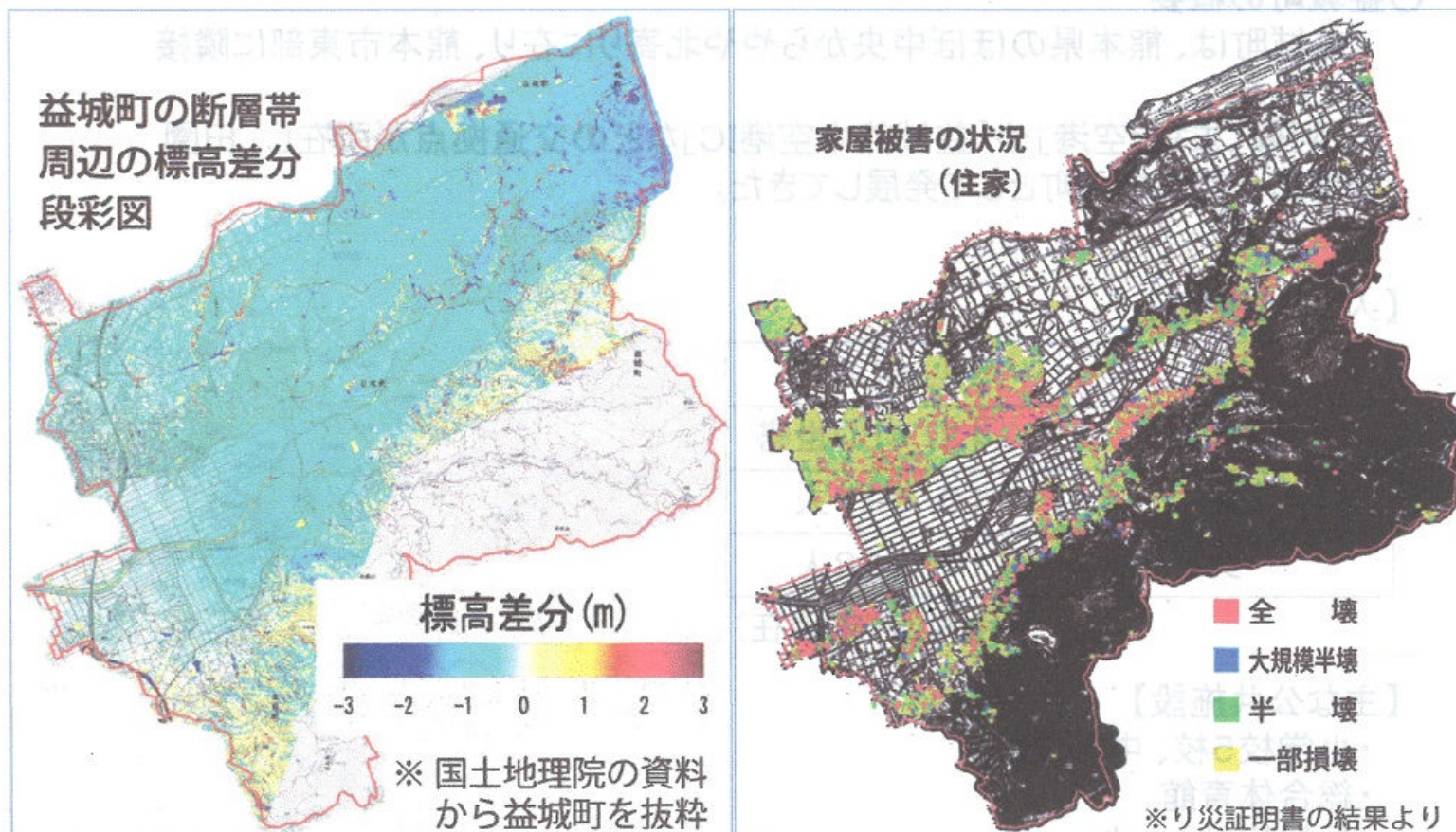


【余震の状況】(平成28年4月14日～同年10月25日現在)

震度1以上の地震の発生回数:4,113回

震度4以上の地震の発生回数:139回

平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ③



平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ④

○被害状況(H28. 10. 25現在)

【人的被害】

死亡	27名
行方不明者	0名
重傷	106名
軽傷	31名

【家屋被害】

全壊	2,756棟
半壊	2,983棟
一部損壊	4,457棟
計	10,196棟

【避難者の状況】

1避難所	65人
------	-----

【最大避難者数(4/17朝)】

10避難所	16,050人
-------	---------

特に被害が集中した地域



平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ⑤

【被災状況(同一場所から撮影)】



(地震前)



(地震後)

【被災状況(役場周辺の状況)】



平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ⑥



益城町役場西側(本震後)



木山地区 秋津川河川敷沿い道路



福原地区 内寺～川内田地域への町道



小谷地区 上小谷地域

○倒壊家屋等の公費解体撤去

り災証明書で半壊以上と判定された家屋等について、平成28年7月7日から町による解体・撤去を開始。

約3,000棟の家屋等の撤去を見込んでおり、平成30年3月までに終了する予定。



・解体に要する時間は、1棟当たり約2週間～1カ月

・最大で100カ所程度で同時に作業する予定

○益城町震災復興基本方針の策定

- 今後のまちづくりの基本的な姿勢や取組の方向性を示した「益城町震災復興基本方針」を平成28年7月6日策定。

【益城町復興基本方針の内容】

- 1 復興の基本理念
- 2 復興計画策定にあたっての基本的な考え方
- 3 復興計画の方向性
- 4 復興計画に係る組織体制

- この基本方針に基づき、復興に向けた総合的な計画として「益城町復興計画」を年内に策定予定。

揺れやすさマップ（直下の地震）

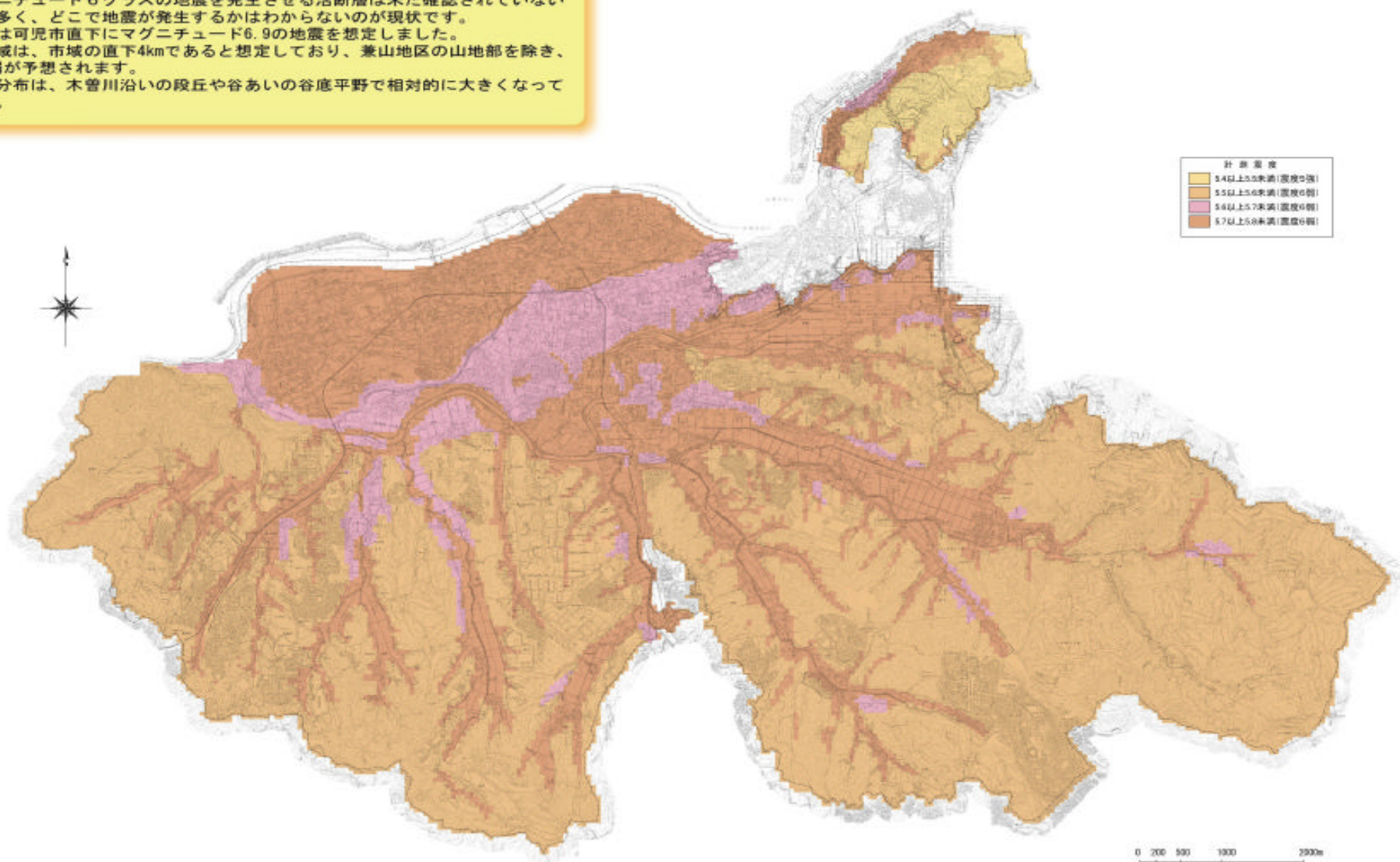
可児市直下の地震が発生した場合の震度分布

マグニチュード6クラスの地震を発生させる活断層は未だ確認されていないものが多く、どこで地震が発生するかはわからないのが現状です。

今回は可児市直下にマグニチュード6.9の地震を想定しました。

震源域は、市域の直下4kmであると想定しており、兼山地区の山地部を除き、震度6弱が予想されます。

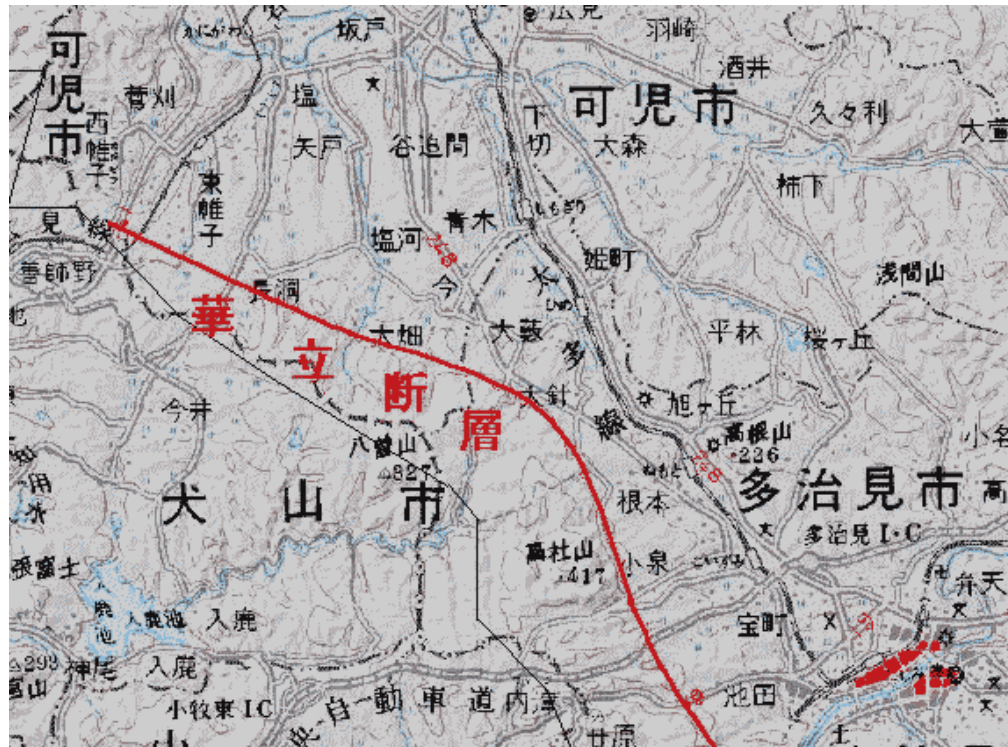
震度分布は、木曽川沿いの段丘や谷あいの谷底平野で相対的に大きくなっています。



岐阜県内の主な断層



華立断層(古瀬地震断層)



梅原断層

